

言語技術【情報を分析する技術】を活用した読み取りの実践

江田島市立中町小学校 表田 さかえ

1 実践の趣旨

本学級の児童は、賢治の詩「雨ニモ負ケズ」を暗誦したことがあり、「注文の多い料理店」を読み聞かせて聞いたことはあるが、宮沢賢治についての知識はなく、賢治作品について学習したことはない。

読書に関しては、テレビドラマやアニメや映画などの影響を受け、それらの原作小説やノベライズには興味を示すが、文学作品からは遠ざかっている。

初見での文章の音読を苦手としており、言葉の意味や言葉からイメージを広げることができにくいことがある。辞書を活用したり写真や挿絵や実物を活用したりすることで、言葉に着目させて学習を進めるようにしている。

「やまなし」に書かれた表現を味わわせ、豊かに想像させるには、一つ一つの言葉に一人一人を向き合わせる手立てが必要である。

「五月」と「十二月」の、春と冬という季節の対比に始まり、様々な言葉の対比や擬態語・擬音語・比喩などをキーワードとして進む物語「やまなし」。

本実践では、賢治の造語のもつ響きや対比させようとしているものについて着目させ、文章に基づく挿絵や写真を示して語から受け取る情報の幅を広げた。また、テキストの分析を中心に読み進めることで、「やまなし」の世界を読み取り、「いのち」や「人生」といったような主題に迫れると考え、本単元を設定した。

言語技術

2 実践の概要

(1) 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう

教材 「やまなし」 宮沢 賢治 作 (光村図書6年下)

かすや昌宏 絵

〈資料〉「イーハトーヴの夢」 畑山 博

(2) 単元の目標

○ 情景や独特の表現に興味を持ち、宮沢賢治の作品に書かれている命について考えようとしたり生き方を知ろうとしたりする。 【関心・意欲・態度】

◎ 作品の情景を、叙述に即して想像しながら読むことができる。 【読むこと ウ】

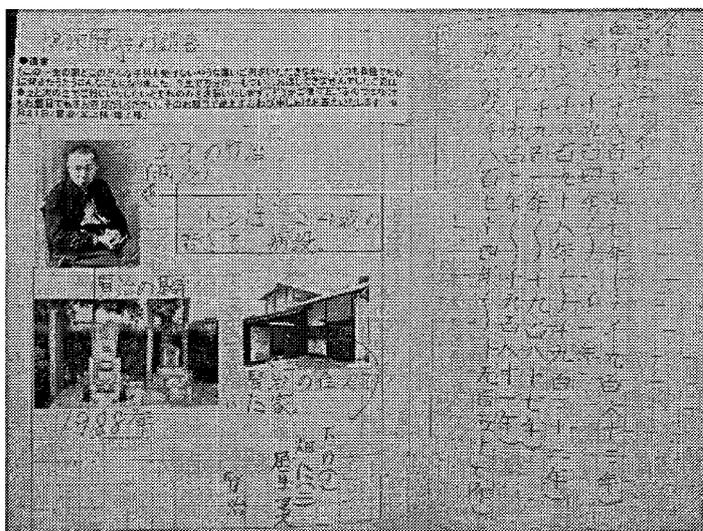
○ 比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像することができる。 【言語事項 ウ- (エ)】

(3) 手立て

① 「やまなし」に書き表されている賢治の生涯と生き方とを読み取らせるために

- ・ 「やまなし」を読み進める前に資料「イーハトーヴの夢」で賢治の生き方や考え方について知る。「妹トシの死」についても参考程度に触れる。

児童の調べ学習のノート⇒



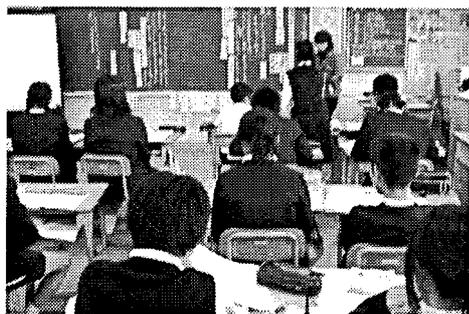
② 「やまなし」の主題に到達させるために

(4) 指導と評価の計画 (全16時間)

次	時	学 習 内 容	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	7	①資料「イーハトーヴの夢」を読み、初発の感想を交流する。 ②単元の目標を知り、学習計画表を作成する。 ③新出漢字と難語句についての学習と音読をする。 ④⑤⑥⑦賢治の人生について、読み取り、賢治の人生について年譜にまとめる。	○			○ 情景や独特の表現に興味を持ち、宮沢賢治の作品に書かれている命について考えようとしたり、生き方を知ろうとしたりしている。 【関心・意欲・態度】	発言 観察 感想文
二	8 (本時6/8)	①「やまなし」を読み、初発の感想を交流する。 ②全文を意味段落に分ける。 ③「五月」と「十二月」の二つの幻灯の大きな出来事について簡単な言葉や図で構造的に対比させる。 ④⑤「五月」の谷川の様子について読み取る。 ⑥⑦「十二月」の谷川の様子について読み取る。 ⑧「五月」と「十二月」の違いについて、感じたことを交流する。		◎	○	◎ 作品の情景を、叙述に即して想像しながら読んでいる。 【読むこと ウ】 ○ 比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像している。 【言語事項ウー(エ)】	発言 ノート 書き込み 観察
三	1	①「イーハトーヴの夢」と「やまなし」で読み取ったことをまとめ、命について考える。	○			○ 情景や独特の表現に興味を持ち、宮沢賢治の作品に書かれている命について考えようとしたり、生き方を知ろうとしたりしている。 【関心・意欲・態度】	発言 ノート

(5) 実践授業本時指導案 (13時間/全16時間)

学習活動	指導上の留意点 (言語技術との関連)	評価規準 (評価方法)
<p>1 課題を確認する。</p> <p>2 「十二月」の幻灯を音読する。</p> <p>3 「十二月」の幻灯の中で起こる出来事を挙げる。</p> <p>4 かにの兄弟があわをはく場面と、やまなしが水面に落ちてくる場面を想像しながら読む。</p> <p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<p>「十二月」の情景について、想像しながら読もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉のリズムや響きが味わえるように、間を取って音読させる。 「〇〇事件」と命名させ、それぞれの言葉で表現させる。 <p>予想される児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> かにの兄弟げんか事件 かにのあわ競争事件 黒いものが落ちてきた事件 やまなしが落ちてきた事件 <p>その中で、最も中心となる事件は何かを考えさせる。</p> <p>情報を的確に分析する技術</p> <p>「色」や「比喩」などの表現に着目させて「十二月」全体をイメージさせる言葉を取り出させる。</p> <p>擬態語や擬音語を取り出すことで、水底の色や音などが豊かに表現されていることに気付かせ、その表現を味わわせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「十二月」の水底の様子が分かる言葉を見つけさせる。 かにの兄弟があわをはく場面の様子が分かる言葉を見つけさせる。 やまなしが水面に落ちてくる場面の様子が分かる言葉を見つけさせる。 言葉を見つけさせ、その状況を簡単に絵で描き表すようにする。 「五月」の場面の事件のように、やまなしが落ちてきた意味を考えることを知らせる。 	<p>◎ 作品の情景を、叙述に即して想像しながら読んでいる。</p> <p>【読むこと ウ】 (発言・ノート書き込み・観察)</p>



黒板の横に設置したプロジェクターで、教科書の挿絵や写真の映像を映しながら授業を進めた。

(6) 授業の様子

資料「イーハトーヴの夢」を読んだ後に、一人一人が賢治についてもっと知りたいことや妹トシについて、文献やインターネットを使っての調べ学習を行った。このことで資料に記載されていること以外の賢治の人間性や生涯に触れ、驚きや共感を覚えた様子だった。又、賢治の人間性や生涯や思想と「やまなし」に書かれている言葉と関連づけることができた。

場面の出来事をユニーク且つ的確に「〇〇事件」と命名することが出来、場面展開を楽しんでいる様子が伝わった。

本文をコピーして冊子にしたものへの書き込みをさせたことは、言葉一つ一つにこだわって文章を読み取る有効な手立てとなった。

書き込みの内容は、擬態語・擬音語を自分なりに書き換えて語感の違いを確かめさせたり、現代文との違いを感じさせたりすることもねらいとした。

書き込みをもとに、文章に沿って児童から発言し、同じことばについての発言をつなげたり次につなげたりするという授業形式で進めていった。主体的に文章を読み取るのだ、という児童の意識は育った。

3 成果と課題

【成果】

- 本文をもとに、場面ごとや展開ごとの挿絵を描かせたり、プロジェクターで絵や写真を提示したりしたことが、情景を豊かに想像することにつながり、本文理解を促すことができた。
また、意味不明な賢治語録についても自分なりの考えをもたせることができた。
体験・経験の少ない児童には、画像という情報の活用も有効であった。
説明文についても、言葉についての意味理解を深めるための視覚的情報が必要であると感じた。
- 「色」や「比喩」などの表現について丁寧に取り出して書き込みをさせることで、賢治らしさや比喩の素晴らしさに気付かせることができた。
- ただ単に「読書をする」と言っても、読書の楽しみを体感できていなかった児童が、この実践を通して、言葉から想像するということがどんな作業なのかを体験することができ、読書意欲を換気することにもつながった。

～事後の感想文より～

- * クラムボンには、川の命全部を表していると思う。いろんな川の生き物の命についてかこの親子が見てきたものについて話していたんだと思う。
- * やまなしの学習をして、はじめはさっぱり意味が分からなかったけれど、授業を何回かするうちに分かってきた。いろんな表現を使ってやまなしの世界が書かれているので、自分もあんなふう文章を書いてみたいと思った。

【課題】

- 分析させる情報「画像」については、指導者の主観によって偏ることがないように精選しなければならない。
- 分析させる情報「テキスト」については事細かく追求していったが、この教材に適した読み方であるのかどうかについては疑問が残る。

■ 資料 ■ 初発の感想及び児童の疑問など

「やまなし」という題について

- なぜ宮沢賢治さんは、題名を「やまなし」にしたのか。
- 宮沢賢治はやまなしが好きだと思う。

○ この物語の題がなぜ「やまなし」なのかと思っていたけど、やまなしが川に落ちたからだということが分かったのでよかったです。

一 五月

- ・ クラムボンに笑うのが好きなんだと思いました。 ・ 海での行動や会話がよくわかった。
- ・ 二匹のかには、分からないことがあるとすぐにお父さんに聞いていたので、よっぽどお父さんが好きなんだと思いました。
- ・ 「青光りのまるでぎらぎらする鉄砲玉のようなもの」という表現が、鉄砲玉か魚かなと悩むくらいの表現でした。
- ・ クラムボンは、多分かにかの子どもらがいいたあわのことだと思う。
- ・ 「波からくる光のあみが…」の表現で、水の底だと言うことが分かります。

【五月のはてな】

- ・ クラムボンと何回も言っていたところ。 ・ クラムボンはどういう意味なのか。何のために書いたのか、よく分からない。
教科書では「作者が作った言葉。意味はよく分からない。」と書いていて、どういうものか見てみたかった。
- ・ 「クラムボンは笑ったよ」とか「クラムボンは死んだよ」とか、なぜ死んだのか？どうして笑っているのか？が不思議に思いました。
宮沢賢治さんしか知らない言葉なので、みんなでよく考えて知りたいなと思いました。
- ・ クラムボンが死んだよ、と書かれているけど、どうしてクラムボンが死んだことが分かったのか不思議に思いました。
- ・ お母さんがいないのに、なんで子どもが生まれているのかと思いました。
- ・ 宮沢賢治さんは、クラムボンという言葉の意味があって書いたのかを知りたいです。
- ・ 「光の黄金のあみ」が何を表しているのか分かりませんでした。 ・ 「白いかぼの花びら」
- ・ 魚が行ったり来たりする場面で、かにかが魚に「取ってるんだよ」と言ってるのは、何を取っていたのか。

二 十二月

- ・ イサドというのは宮沢賢治が書いた名前、イーハトーヴのパノラマ地図にも載っているのと同じだと思いました。

【十二月のはてな】

- ・ 遠眼鏡 ・ 金剛石の粉 ・ なぜ川にダイヤモンドが落ちたのか。 ・ 「やまなし」とは何か。
- ・ 「やまなし」が何かはわからないけど、かにかにとってはいいにおいのするものだということが分かりました。

「やまなし」という童話について

- 兄弟の話、そして、家族冒険のようでした。
- この「やまなし」は、とても静かでおだやかな感じの川に二つのことが書かれていて、はらはらしたりするので、とてもおもしろい物語だと思いました。
- 宮沢賢治さんらしい作品だなと思いました。理由は、この話の内容がすごくやわらかくてほんわりした感じだったし、怒る場面が一つもないからです。
- 宮沢賢治さんは、この物語を通して私達に「兄弟・家族愛」の事を言いたいんだと思います。
理由は、兄弟のかにかの言葉があるからです。どんなにけんかしても仲良しなのが兄弟なんだと言いたかったんだと思います。
- 川の中の出来事をいろいろな言葉で表したり、作者が考えた言葉も入っていたので、よく意味が分からなかったけど、読んでみると、この言葉は何かと考えると読めるので楽しい物語だと思いました。
- やまなしを自分で読んだ時には意味が分からなかったけど、今日、聞いたら少しは意味が理解できました。
- 宮沢賢治は岩手県に生まれていて、ときどきかにかの会話が岩手県の表現だったことに気がきました。
- 作者がかにかの気持ちを書いておもしろいなあと思いました。かにかが思ったこととか、かにかの見たものとかがくわしく書いてあって、おもしろいし不思議な物語でした。
言葉の表し方とか、他の本とは違ってよく分からないところもあった。
- この物語には、少しざんこくな表現などが使われていたけど、物静かで楽しそうな感じのお話でした。
- 私がやまなしを読んで心に残ったことは、人間は川に住んでいないから分からないけど、かにかたちは川の中でやまなしとかせみを見ることができたことです。